

唯物論

11 1979,5

唯物論編集委員会編

特集 ● 自然

秋間実—資源=エネルギー問題と
マルクス主義哲学

小出昭一郎—エネルギーの本質について

中川直哉—空想的エネルギー談

森健志—生命的自然の諸様相

有尾善繁—初期マルクスの自然概念

宮原将平—エンゲルス氏との架空会見記

仲本章夫—最近の自然観をめぐって

松井利彦—明治文学に於ける天然自然

汐文社

《新刊案内》

現代科学の形成と論理 物理科学を中心に

荒川 泓／秋間 実著

46判上製函入／2800円

現代を科学の新たな発展の胎動期と考える著者たちが、空間、時間、物質、情報、エントロピーなど基本的概念の内容と相互関係を、その形成過程に即して究明し、複雑化した現代科学への的確な見通しをあたえる

価値とはなにか マルクス主義の 哲学的価値論

トゥガリノフ著／岩崎允胤訳

46判カバー装／1300円

歴史、社会体制、階級をこえて、思想と行動の底に流れる価値意識に光をあて、その形成過程と構造を問う。教育学、心理学の成果もとりいれマルクス主義人格論に、歴史的、思想史的視野をもたらした先駆的力作

経済学と弁証法

平野喜一郎著

46判カバー装／1600円

近代社会科学の成熟過程の素描をふまえて、マルクスとレーニンがヘーゲルから学びとり発展させた弁証法とは何かを徹底的に解明。経済学と哲学のあるべき基本関係を提起し、社会科学方法論の確立をめざす労作

学問と創造のはたらき

杉田元宜著

46判カバー装／1300円

指針なき時代といわれる現代にあって、未来への活路を発見し、学問をすすめる基礎となる創造性のメカニズムに注目し、教育と創造性の関連創造人ゲーテの再評価、現代諸科学像の紹介の上に創造の科学論を展開

経済学批判プランと「資本論」

現代資本主義論への展望

コーガン著／中野雄策訳

46判カバー装／1900円

ソ連の経済学界にあって独創的理論展開をすすめてきた著者の代表作。マルクスの経済学批判プランの「変更説」を徹底的に論破し、批判体系が内蔵する理論的沃野を発掘。『資本論』の方法論研究に斬新な問題を提起

学問とはなにか

島田 豊著

国民文庫／350円

若い知性と感性を揺すぶる人生と学問の基本問題を、古典との自在な対話、現代文化へのユニークな批評、そして自らの大学生活、イタリア留学の体験談を通して語りかける。学問の人間臭い魅力に気づかせる好著

大月書店 東京文京本郷2-11
電話03(813)4651

唯物論

第 11 号

『唯物論』編集委員会



汐文社